

第二部 内定者の国家公務員採用総合職試験 体験記

この第二部では、内定者 12 名による国家公務員総合職試験、いわゆる筆記試験の勉強・対策方法をお伝えします。「選択試験ではどの分野を選ぼう?」「この勉強方法ってどうやるの?」「政策課題って何やるの?」と気になる理工系の方、試験対策の参考にいただければ幸いです。

H27 年度 理工系内定者の筆記試験の内訳

<<試験の区分>>

■ 工学 ■ 化学・生物・薬学 ■ 数理科学・物理・地球科学



<<試験の種類>>

■ 大卒程度 ■ 院卒程度



<<勉強方法>>

■ 独学 ■ 予備校 ■ 大学内講座



※ 本紙に記載している試験方法や内容は、H26 年度国家公務員採用試験について述べたものであり、H27 年度以降の試験とは試験時期や英語試験の活用などの点で異なる可能性があります。また、勉強方法や選択問題のオススメ等については、あくまでも内定者個人の見解に過ぎず、もし事実と異なった場合でも責任はとりにかねますことをご了承ください。あくまでも、本紙は受験者様の参考程度としてご覧いただければ幸いです。

(参考)

人事院の発表によれば、次年度以降 TOEIC、TOEFL、IELTS、英検のスコアに応じた得点が試験の総得点に加算される模様です。また第一次試験が 5 月下旬と 1 カ月後ろ倒しされるようです。詳しくは人事院 HP でご確認ください。

－ 簡単な国家公務員総合職試験の内容の説明 －

【一次試験（教養+専門）】

全てマーク式の筆記試験です。教養試験では選択問題はなく、専門試験では複数の分野から4～6科目選択し、必要数の問題を回答します。大卒区分と院卒区分では、教養区分と専門の問題数・配分が一部異なります。

この試験に合格することで、二次試験～人事院面接へと進めます。なお、教養試験はいわゆる大学受験におけるセンター試験をイメージされるとわかりやすいと思います。

【二次試験（専門）】

完全記述式です。基本的には、複数の分野から1～2問選択して回答します。

理工系においては専用の参考書などはあまりないので、大学の定期試験、院試、過去問や専門書による勉強が中心となるようです。過去問は人事院に開示請求すると入手できます。インターネットで希望する試験年度や開示媒体を申請し、手数料を収入印紙で納入します。

【政策論文】 ※大卒程度区分のみ

設問に関連して与えられる複数の資料を読み取り、その情報を踏まえて、自分の考えを織り交ぜながら結論を導きます。

資料は文章とグラフの両方が与えられ、英語の資料が用いられる場合もあります。

【政策課題討議】 ※院卒程度区分のみ

当日に配布された和文・英文の資料に時間内に目を通し、自分の意見などを加えた討論用のレジュメを作成します。そのレジュメを6人のグループ全員に配布し、各自のレジュメを踏まえて集団討論を行う試験です。

【人事院面接】

当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。

面接時間はおよそ10～20分程度で、面接官は3人（人事院の方と各省庁の現役の方らしいですが真相は不明）です。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：あやち （工学・大卒区分）

1. 勉強量について

勉強開始時期：1.5 カ月前（本格的には）

公務員講座で1年位前から授業は受けていましたが、授業やテスト勉強に追われてなかなかできませんでした....。

【一次と二次をどうやって両立したか】

勉強時間 一次：二次 \Rightarrow 2：1

一次専門に関しては専門分野があまりなく、独学で何とかしなくてはならなかったので専門に力を入れていました。結果、一次は大惨事...。滑り込みで合格しました。自己採点の結果は5割くらい...。ごめんなさいごめんなさい...。

二次試験の勉強は一次が終わってから始めました。ですが、専門科目が2科目に減りましたし、大学でやっていることそのままの問題だったので、比較的よくできたと思います。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

勉強時間 専門：教養：政策論文：面接 \Rightarrow 5：2：0.5：2.5

両立...してないです（笑）先ほど述べたとおり、一次の専門を自分でやらなければならなかったので教養は数的処理のみやり、他は捨てる、専門の勉強をしていました。

専門の二次試験は大学の内容と近いこともあり、そこまで切羽詰っていませんでしたが、それでも振り返ると二次試験科目の中では、いちばんやっていたような気がします。政策論文はほぼ無勉強です...。書き方のコツを大学の先生に聞いて、あとは本番！という根治でした...。

人事院面接の練習は3回くらいやった気がします!!

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

大学の公務員講座を中心に学習を進めていました。しかし、講座に出るのを忘れてしまったり大学の授業・課題に追われたりして、数的処理以外はあまり勉強しませんでした。数的はそれなりにやりましたが、ぜんぜんできませんでした。慣れがあると思うので、直前に一気にやるのではなく、1年位前から1日1問やる、というようにこつこつやるほうが伸びると思います。私はさぼりつつ一年間ちょこちょこやって最後一気に出そうな問題をやりましたが、範囲が膨大でとても短期間に詰め込める量ではなかったです。

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マペー	たくお	ピペット	なめこ

大学の公務員講座のテキスト以外では過去問を5年分?くらい?やりました。

資料解釈は最後までできるようになりませんでした。苦手。誰か私に勉強方法を教えてください← 参考書を買いましたが、分かりませんでした。公務員講座のテキストも分かりませんでした。苦手。

化学・物理・生物は高校でやっていれば余裕です(と思います)。やってない科目(私は生物)は捨てました。

文章理解は、高校のときから国語が得意だったのであまり苦にならず。英語にはすごく苦しめられましたが、最終的には捨てました。

日本史は点数をとりたかったのですが、苦手な近代史からの出題が多く、本番でもできませんでした。ほかの社会はいわずもがな捨て間に。

時事問題もほぼ捨てていました。時事をまとめてくれた参考書をすこおし読みました。

あまり勉強をしなかった教養科目ですが、(ほんつつつとうに参考にならなくてごめんさい) 正直文章理解・英文理解・数的処理・資料解釈・理系科目(物理・化学・地学・生物)さえ完璧にできれば、まったく問題ないと思います。文系科目は出ても1問ずつですし、勉強時間を割く必要性はあまりないかなあ...と思います。

試験の感覚(というか私の試験の作戦)としては、数的・資料解釈・英文以外をできるだけ早く解いて、特に数的に考える時間を用意したらいいと思います。これら以外の問題(特に社会、化学とかの暗記科目)は分からなかったら絶対にわかんないままなので、早めに諦めて時間をセーブするのが懸命だと思います。

【専門試験(工学・一応土木)】

まず、専門試験全般で言えるのは余分なことを考えず、自分が得意な科目を解くのがいいということです。「試験科目でこの科目のほうが、受験者が少なくて有利だろうから苦手だけどがんばろう」という人がいるかもしれませんが、(きっと)そんなことはありません。自分がどのくらい点が取れるのか、が何より大事だと思います。

それから、最初は過去問を中心とした参考書をやっていたのですが、総合職以外の問題も多く、やる気が出なかったのでやめました。大学受験時からそうですが、問題集だとやる気が出ない性格らしく、過去問をひたすら解いていました。解きながらポイントとなる公式を覚え、分からないところをつぶしていました。5年...くらい?解き、大学の先生や(常駐してないので)FAXで公務員講座の先生に分からないところを聞いていました。

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

● 専門一次

<物理・数学>

何問か計算に時間がかかる問題があるので、そういった捨て問を見極めて後回しにすることが大事です。

そして私は高校生のときから、数学が英語の次に苦手だったのでごく苦勞をしました…。これもひたすら過去問をやり、そのなかでポイントを学んでいきました。

物理は割と得意だったので結構できるつもりでしたが、自己採点してみるとあまりできていなくて驚愕でした…。計算ミスとか注意。物理も過去問しかやっていません。私の場合は、物理はある程度パターンもあるので、公務員試験対策の参考書と平行して総合職過去問をやっていました。

*勉強した科目

基礎科学・流体力学・材料力学・熱力学・環境衛生工学

一応土木学科であるものの、環境問題に関連する部分のみを重点的にやるコースなので専門一次は独学する必要がありました。構造力学も土質力学も選択科目で、しかも前半しか学校でやっていない状況でした…。

<基礎科学>

高校化学・大学の教養の化学みたいなことが問題になっていて非常に勉強しやすい科目でした。

<流体力学>

水理学は土質力学とセットになっていて、土質力学が大嫌いだったので似たような科目である機械系の流体力学をやっていました。水理学は大学の授業で習っていたのでそこまで勉強しづらくはなかったですが、かなり忘れていました。

<材料力学>

構造力学も、水理学と同じく、土木施工・土木材料とセットになっており、土木施工・土木材料は大学でかけらもやっていないので、似た科目である材料力学をとりました。構造力学も前半しかやっていないので後半は先生に聞きまくりながら独学しました。

<熱力学・環境衛生工学>

熱力学は機械系の科目ですが大学でやっていたので（私のコースはいったいなんなのか）、すんなり勉強できました。高校物理の熱力学を使える問題も結構あるので勉強しやすいと思います。

環境衛生工学は専門分野なのでこれもすんなり勉強できました。ただ、計算問題ではないので自分の答えがあっているのか間違っているのかはかなり判別しづらいというのが難点です。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

● 専門二次（どの科目を選んだかを含む）

大学の授業でやった熱力学・熱機関と環境工学・衛生工学を選択しました。

どちらも大学でやっており、そこまで苦勞しませんでした。

熱力学は一次試験とそこまで大きく内容が変わらないので、一次試験の勉強も生きてきました。過去問を解いて、分からないところを授業で使った教科書や高校のころの参考書を使い解いていました。

環境工学・衛生工学の下水・浄水分野は問題内容がほぼ定期テストそのまんまだったので改めて勉強する必要はほぼなく、総合職の過去問を見て模範解答を作り、テストに備えました。専門二次は出来としては悪くなかったと思います。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マペー	たくお	ピペット	なめこ

【政策論文】

政策論文は1回だけ大学主催の添削会（マンツーマン）を利用しましたが、どのように文章を作っていたらいいかわからず、政策論文を書かないで添削会に臨みました。←

そこで書き方がわからず書けなかったことを伝えると、書き方を教えていただけて短期間でずいぶん上達しました。その際に、

- ・問題文に的確に答えること
- ・無理ないロジックで文章を書くこと
- ・(できたら)すべての資料について小論文内で触れること

と言われました。

問題文に的確に答える、ということはすごく重要だと思います。

たとえを出るのが難しいですが、「○○の言葉の意味を答えなさい」と言われたら、その資料から読み取れる言葉の意味は最低書かなければいけません。「政策論文だから政策を絶対に書かなくてはいけない」と思うかもしれませんが、この場合、政策のみが書かれていて、意味について書かなければ大幅減点かと思います（もちろん、意味について触れた上で政策が書かれていれば好印象）。

それから無理ないロジックが展開されているかどうか、論理に飛躍がないかどうかにもよく見られると思います。論理の飛躍は人に読んでもらわれないとなかなか気づかないので人に読んでもらうことが重要だと思います。

最後の「すべての資料について～」というのは、書いておいてなんですが、すべての資料に触れるということは添削者によって言うことが変わるらしいので、あまりとらわれ過ぎない様にしてくださいね。私はそのことを踏まえて過去問を解こうとしたら英文の資料が理解できなくて泣きました。トイレで。

本番は英文の資料がなくなり、日本語文に、グラフが英語になっていたのも何とか3つすべてを使って書くことができました（めちゃめちゃグラフから話をそらせましたが）。

それでも書き方が分からないという人は、

資料1からは～が読み取れます

資料2からは～が読み取れます

資料3からは～が読み取れます。

問題文を踏まえて自分なりに3つをまとめる。

というテンプレートに当てはめるとよいと思います。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マペー	たくお	ピペット	なめこ

【人事院面接】

まず、大学2年生くらいから、普段の生活で面接のタネになりえそうなものは何かと日常的に考えるようにしていました。様々な面接セミナーで「何をやったかではなくてその行動から何を学んだか、どういったことを工夫しながらすごしたかが大事」と言われていたのでそのあたりを重点的に意識しながら生活をしていました。

直接的な対策としては一次試験が終わったあたりから大学の公務員講座でやってくれる模擬面接を3回ほど行いました。民間就活はしていなかったもので、最初はかなりぎこちなかったのではないかと思います。圧迫面接っぽい面接官やらあまりしゃべらない面接官やらいろいろ、練習の模擬面接ではやってもらいましたが、本番はいたって普通、でした。面接形式の練習は面接なれする意味でもすごく重要だと思います。面接は慣れが命です。

事前提出する資料にそって質問されるので、いかに突っ込みたくなるようなキーワードを資料中に散りばめられるかがポイントだと思います。(もちろん、突っ込まれたときの質問は用意しておく。)

それでもどうしても予測できない質問が出てくるときはあるので臨機応変に対応する力が必要だと思います。質問は(当たり前ですが)その場の流れで面接官が考えるのでいかようにも飛んできます。

私が印象に残っているのは「学業に力をいれたこと」の欄で「教養科目」と書いていて、

Q.印象に残った授業は?→フィンランド語です

Q.どうしてフィンランド語?→環境先進国の北欧だから

Q.フィンランドが環境先進国であるけど日本とどういうところが異なってこのような差が生まれたと思うか?→フィンランドは湖の近くに別荘を持っていたり木苺を食べたりして自然に親しむ文化が国民に根付いているのだと思う。

という流れで質問されました。

ちなみに太文字 **Q.**に対する答えはその場で無理やりひねり出しました。

このような困る質問も時々ありますが、資料からの流れを無視することはないです。

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

院試のために TOEIC を受けましたがひどい点数です。むしろ私にいい勉強方法を教えていただきたい....

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：鯛 (工学・院卒区分)

1. 勉強量について

私の一日(試験勉強期)

6:00	起床、朝食、勉強
8:00-8:15	朝ドラ ～ここからはじまるあなたの物語♪～で気分上々
8:30-12:00	図書館で勉強(数的処理メイン)
12:00-12:30	昼食
12:30-18:00	図書館で勉強(専門メイン) ついでに研究関係の文献をあさる
19:00	帰宅、勉強(研究関係)、夕食→ごろん、まったり、晩酌
22:30	就寝

朝から試験の頭にするのが大事だと思っています。

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次試験までは一次試験の勉強、二次試験までは二次試験の勉強でした。最大の難関は一次の教養だと思っていたので、それまでは二次試験のことを考える余裕はありませんでした。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

両立というほどでもないと思います。バランスよく、自分が苦手だなーというところに時間をかけました。(数的処理など)

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

問題数が多いので数的処理、試料解釈ばかりひたすら解きました。あとは過去問で傾向を見るくらいですね。

【専門試験(工学・土木)】

● 専門一次

過去問二年分で勉強しました。(後に後悔)工学一般問題と各専門をバランスよく解くことが大切ですね。専門は土木三力(構造力学、土質力学、水理学)と衛生工学、環境工学、を勉強しました。学部の教科書と院試でまとめたノートで復習する感じでした。時間を測らずに勉強していたので、本番に時間配分がうまくできずに撃沈しました。

● 専門二次(衛生工学、信頼性工学)

二次試験で挽回するしかない!と思い、過去問は10年分解きました。10年分解けばたいいの問題パターンは網羅できたのではないかと思います。土木三力はプライドとともに捨てて信頼性工学にしました。初めて知ることばかりで純粋に面白かったです。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎ ちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ 眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

【政策課題討議】

ゼミなどでディスカッションができれば大丈夫だと思います。初対面の人とディスカッションするという経験はなかなかないかと思いますが、相手の意見を聞きつつ自分の意見を言って議論を広げていくことができれば大丈夫だと思います。「はじめてください」の後、30秒ほどの沈黙を「よろしくお願いします」で破ったことを評価していただけたのではないかと考えています(笑)

【人事院面接】

普通の面接でした。前日に友達と面接練習したくらいです。

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

特別なことは何もしていません。試験より官庁訪問で TOEIC のスコアについて突っ込まれることが多かったです。かなり低かったので。(笑)スコアに自身のない方はあげておくと安心かもしれません。(笑)ただ、英語だけで落とされるということはないはずです。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：タマ (工学・大卒区分)

1. 勉強量について

勉強開始時期：年明けから

勉強方法(予備校・大学の公務員講座・独学)：教養科目は予備校 専門は独学

【一次と二次をどうやって両立したか】

勉強時間 一次：二次 \approx 2：1

二次試験の勉強は一次試験終了後にはじめた。二次試験の内容的に一次試験の勉強が終了していないと難しいと感じたためである。二次試験の比重が低いのは、地方上級試験を併願しており、その対策に時間をとられたためだ。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

勉強時間 専門：教養：論文 \approx 5：4：1

教養科目は予備校を利用し、効率重視で勉強するようにした。そして論文の対策は、予備校のテキストだけで軽く済ませたので時間をかけずにすんだ。そのおかげで専門科目の勉強に十分な時間を割くことができた。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

予備校に入り、日本史や世界史、自然科学、時事問題など、自分が勉強しやすいところを効率的に勉強するよう努めた。教養の勉強は予備校で配布されたテキストや問題集のみを使用した。

試験問題は、数的推理、判断推理の難易度が高いと感じた。しかし、時間をかければ解ける問題もあるため、他でどれだけ時間を節約し、数的推理・判断推理に時間を割くかが重要だと思う。

【専門試験(工学・土木)】

● 専門一次

一次試験の一ヶ月前から講義ノートを見直して、三力の勘を取り戻す。その後は、公務員試験用の土木専門参考書をひたすら周回した。

試験の難易度はそれほど難しくない。公式を適当に使えば解答できるような問題も散見できた。また、国家総合職試験は、数ある問題から 20 問を選択して解答するので、他専攻

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

の科目も選択してよい。私は、土木だけでなく建築に関する勉強もしてきた経緯があるため、建築系の簡単な問題を選択することができた。

前半 20 問ある必修科目の工学の基礎（数学、物理）は、無対策で試験に臨んだ。結果は撃沈。最低限の復習は必要だと感じた。問題自体は難しくないと思う・・・私はできなかったけど（笑）

● 専門二次（どの科目を選んだかを含む）

二次試験の問題レベルは一次と比較すると難しくなり、公式が使えるだけで解けるような問題は非常に少なくなる。二次試験は二科目選択なので、保険をかけて土質力学、水理学、土木計画の三科目を対策した。土質力学と水理学の勉強では、教科書やノートから、式の成り立ちなど基礎的な理解を深めるようにした。

試験本番、問題を見てみると土質力学が全然分からなかったため、水理学と土木計画を選択した。水理学の内容は、公式の導出や現象の説明？的な内容で、基礎が理解できていれば容易に解答できる内容だった。土木計画もとっつきやすい問題が多かった。

【政策論文】

予備校のテキストを用いて勉強した。テキストを用いて地球温暖化や少子高齢化など、メジャーなテーマに対する理解を深めておいた。

試験は、問題文が英語でびっくりしたが内容は難しくなかった。時間との勝負になるので、過去問に二、三回チャレンジしてペース配分を掴んだほうが良いと思う。

【人事院面接】

民間企業で慣らしていたので無対策で臨んだ。

面接シートに書いた内容について話せば大丈夫だと思う。

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

英文読解のペース配分をつかむために、予備校で配布されたテキストの長文問題を 10 問ほど解いただけ。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：うなぎちゃん (工学・区分)

1. 勉強量について

勉強開始時期：約 1 カ月前

勉強方法(予備校・大学の公務員講座・独学)：独学

【一次と二次をどうやって両立したか】

勉強時間 一次：二次≒1:1

一次試験の対策は 3 月末からぼちぼち始めました。二次試験は一次試験が終わってから対策を始めました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

勉強時間 専門：教養：政策論文≒3：1：0

教養は特に対策はしませんでした。ただ、感覚を身につけるために数的処理に関して公務員試験対策の参考書に少し目を通したりはしました。専門は、工学の基礎は大学受験を思い出しつつ、過去問を解き、苦手なところだけ大学受験の教材を解き直してカバーしました。後半の専門は院試を受けたことがなかったので重点的に勉強しました。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

数的処理は感覚をつかむために、参考書をさらっと読みましたが、その他は特に対策はしませんでした。過去問 3 年分くらい解いて、時間内に感覚をつかむ練習をしました。後半の社会系の科目は全部まるまる捨てて (全部 3 とかにしました)、余った時間を思考系の問題にあてました。

【専門試験 (工学・土木)】

● 専門一次

先述しましたが、工学の基礎については基本的に大学受験を思い出しながら過去問を解きました。専門については構造力学と衛生工学を主に対策していましたが、基礎化学、基礎化学実験、技術論など点の取りやすい科目を探して過去問だけ解いておきました。効率よく解ける問題だけピックアップして解けば合格点に届くのも容易だと思うので、どこが自分にとって解きやすいのか計画をたててみてください。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

● 専門二次（どの科目を選んだかを含む）

衛生工学と構造力学・材料工学について対策を行いました。衛生工学は B の上下水道工学に絞って対策。過去問を 10 年分くらい解いて、大学の先生に添削してもらいました。構造力学と材料力学はどちらか簡単な方をとく方針で対策でしたが、どちらも初学の独学の専門外だったので結構苦労しました。過去問の答えは他学科の友人が解いたものを参考にしたり、チームプレイ？でがんばりました。

【政策論文】

ほとんど対策はしませんでした。一年分だけ書いて、時間感覚だけつかみました。

【人事院面接】

特に対策はしませんでした。面接カードは仲のよい先輩に前日に見てもらいました。面接カードに書いたことはどこを突っ込まれても良いように、都合の悪いことはカードに書かない方が良いでしょう。あと、各質問を通して一体感のあるシートになるようにしました。あとは、元気に楽しく面接に望むだけです！

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

特に対策はしていません。来年度から試験時に TOEIC や TOEFL が必要になるそうですね。官庁訪問のアドバンテージにもなりますし、高得点を狙っておくに超したことはないと思います。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN : (T_T) (工学・院卒区分)

1. 勉強量について

前年に受かっていた知り合いの、4月から大丈夫よ〜！というアドバイスを真に受け、民間就活にかまけていた人が、運に恵まれた感じなので、あまり参考にはしないほうが.....

勉強開始時期：4月上旬（そっからは毎日十数時間は勉強した）

勉強方法：独学（上記の知り合いのアドバイスが大きかった）

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次までは一次に 100%全力

二次の筆記は、一次専門の復習ですからね

一次が8割あったので、かなり余裕をもってできました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

一日中勉強するとなると、勉強に飽きないことが大事なので、各教科について最低限こまではやる！というのを設定してからは、その日その時の気の向くままに好きな教科をやっていました。ですので、両立とかいう意識をもっていなかったです。

強いて言っても、1 : 1 : 0.1 という感じ。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

<文章理解>国語 3問、英語 5問

国語、英語ともに慣れる程度に問題を解いて、ときたま単語帳を読む程度の勉強。

時間あたりのパフォーマンス、ならびに正答率をあらかじめ知っておいて、時間配分を考えました。少なくとも国語は落ち着いて読めばわかるはずなので、焦らずある程度の時間をかけてしっかり読みましょう。

<判断・数的推理>16問

特別な知識もいらないので、慣れる程度に、勉強に飽きたときの気分転換にやっていました。

これも焦らずにやればできるはずであるから、最も時間配分を多くとって、もし混乱したらすぐに飛ばして、また後で戻ってくるということを心がけました。実際、一周目で半分を空欄で飛ばし、二周目ではすごく落ち着いて考えられ、誤答を1つに抑えられました。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

<知識分野>6問

院卒は知識分野が 6 問しかなかったため、大学受験で使った地理と、後々面接などで役に立つ可能性のある時事以外は無勉。

ところが本番、政経・倫理・世界史などで、伝家の宝刀「困ったら”4”」が炸裂。理系分野からの 1 問も生物でなく物理から出たことで誤答を 1 問に抑えられました。

【専門試験（工学）】

● 専門一次

<必須問題（工学に関する基礎）>20問

大学受験の数学ⅢC までと物理Ⅱまでを復習。塾講師、家庭教師をしていた経験が味方をしてくれました。

大学一、二年のときに数物をマジメにしていなかったことを非常に後悔しましたが、大学受験までの感覚で案外追いつけなくはないです。

フローチャートに関する問題だけは、参考書を結構勉強しました。（本番間違えたけども）

<選択問題>20問

大学院生には院試の勉強が非常に役にたつと思います。学部生でも、授業をマジメに受けていれば、その復習でいくつかの科目は解けるのではないかと。

しかし、私の専門で解ける科目が「環境工学（土木）・衛生工学」しかなくとても困りました。しかし、大学受験までの知識と学部初期の必修科目のおぼろげな記憶を組み合わせれば、それぞれいくつかはできる問題を拾うことができます。本番に私が頼りにしたのが「技術論」、「基礎科学」、「工学基礎実験」、「情報基礎」です。「電気工学」とかからも拾えたりしますね。

そうしてなんとか 6 科目以内で 20 問拾ったわけですが、そうするとやはり自分の専門科目で 5 問抑えるのは非常に重要になりますので、学科の専門分野には力をいれるべきかと思っています。

● 専門二次（どの科目を選んだかを含む）

1 つは一次に引き続き、「環境工学（土木）・衛生工学」を選択。学部時代の試験、院試、一次試験とこれまで 3 回勉強していたので、一日のみの復習で済みました。

もう 1 つは、院試では用いなかったものの、学科の専門科目である水理学を選択。マスターするまで 10 日ほどかかりましたが、学科内に教えてくれる人が多くいたので非常に助かりました。

参考書には、あと一科目くらい用意するべきと書いてあったりしますし、実際その通り

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

かもしれませんが、私は面倒だった、もとい 1 つ余裕をもたせるとどちらも中途半端になるのではと考えたため、この 2 つに絞って勉強しました。

一次試験までは、専門、教養とも時間との戦いという側面があり、焦らないことが重要だったりするかと思います。過去問や予想問題を、何度か時間を区切らずに解いてみて、「時間があれば解ける」という自信をもっておくことが、本番焦らないためにも有効かと思います。

総じて言うと、大学受験の数物化の復習と、院試（学科の専門科目）の復習をして、参考書や過去問などで解き方を慣らすという方法で良いのではないかと思います。

【政策課題討議】

それっぽい参考書を買って、半分程度読んだくらいでのぞみました。

使うべき表現や、優先すべき視点というものが少し勉強になった気もします。

基本的には、自分の主張をもち、相手の意見を聞き、良いところは取り入れる、ということ落ち着いてできれば大丈夫かと思います。

ただ、全員が焦ってよくわからない方向にまとまって流れていくことがありますので、そのとき舵を取りなおせるかが重要ではあるかと思います。私は本番、気づいたら全員でよくわからない方向に流れていて、最後の一人ずつの発表の直前で気づき、「先ほどまで方向性を勘違いしていたことに気づきました。」と一人逃げました。笑

【人事院面接】

面接試験用の参考書を買いましたが、これまた半分くらいで、まあいっかと放棄。

面接カードの内容を自分のなかで整理できていれば問題ないかと思います。私自身、超がつくほどのアドリブ型人間なので、その場で思い至った考えをマシンガンのように言い放って終わったような気がします。

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

来年から TOEIC の点数で加算されるのでしたっけ？

私は、公務員試験のためにはさほど勉強しなかったですが、それは参考にならないですよね。。

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：みずパン（工学・院卒区分）

1. 勉強量について

勉強開始時期：1～1.5カ月前（ただし、専門は以前から時々目を通していました）

勉強方法：独学

僕の周囲には、公務員試験を受ける人がおらず情報量が皆無でした。全体を通して上手な勉強方法では全くなかったはずなので、反面教師にしてもらえれば...と思います。（笑）

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次試験の勉強しかしませんでした。二次試験は、製図試験ということで勉強方法が全くわからず、対策と言えるのは試験前日に関係ありそうな本にちょっと目を通したぐらいです。おかげで二次試験が壊滅したので、皆さんは真似しないでください。（笑）

特に、僕が一番後悔しているのは過去問を全く見なかったことです。

勉強方法はどうであれ、数年間ぐらいの過去問は見ておいたほうがいいらしいです。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

対策時間 専門：教養：課題討議≒2：5：0

理系なのでしっかりと大学の講義で勉強していれば、専門はそこまで難しくはないと思います。特に大学院進学者は、院試の時の勉強が結構役に立ちます。

教養試験は、配点の高い文章問題や数的処理などの勉強を中心的にやればそこまで幅広くやる必要はないと（試験を終えてから）感じました。（笑）

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

理系なので数的理解・資料解釈は大丈夫だろうと信じて、社会科学や法律、時事問題などを文系科目に勉強しました。ただ、後日聞いた話によれば、どうやら逆にこちらを捨て科目にしたほうが、配点や勉強時間を考えると理系院卒には効率が良かったみたいです。

仮に短期間で文系科目を得点するためには、様々な教材を用い広く浅く覚えるよりも、時事問題や判例、憲法あたりを何周もするほうが多分よかったです。このあたりは勉強していて面白いし、範囲も広くはない上に、問題もよく見かけました。

試験を受けた所感では、文章問題（国語・英語）は時間さえかければ解ける問題なので、ここにどれだけ時間を使えるかが勝負だと思います。また、他の公務員試験に比べて、総合職だけは数的理解・資料解釈が特別難しい気がしたので、集中的に勉強しておいて解答速度を上げておくべきだったなーと反省しました。とにかく時間配分が重要だと思います。

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マペー	たくお	ピペット	なめこ

【専門試験（工学・建築）】

● 専門一次

読者の中にはあまりいないとは思いますが、建築分野に主眼をおいて書きます。

僕は基本的に2級建築士筆記試験用の教材を使って、建築分野を全て勉強しました。2級レベルの内容を完全に網羅していれば、国家総合職試験の8割程度は解けると思います。また、どの公務員試験でも、建築法規・建築構造・建築設備の分野は頻出だったので、これらの分野は決して捨てずに勉強しておいたほうがよいと思います。

他の受験者の人は1級建築士用のテキストを使っている方が多かったみたいですが、そこまで難しい問題は数えるほどしか出ませんでしたので、どちらでも好きな方で！

また、国家総合職は問題を選択して回答する形式なので、建築以外にも土木や環境工学も少しやっておくと、問題の選択肢が増えるのでよいと思います。特に環境はオススメ！

物理・数学は、普段から用いている方は問題ないと思いますが、僕は結構忘れていたので過去問集を解くことで実力と勘を少しでも取り戻しておきました。受けたことはないのですが、おそらく難関国立大学入試レベルの問題です。難易度を知るためにも過去問は見ておくといいと思います。

● 専門二次（都市設計（製図））

建築専攻だったので、製図問題（都市）を選択しました。当日にパッと見た感じでは、都市設計と公共施設設計では、やや都市設計のほうが時間的に簡単だと思いました。

この製図については、僕は事前にやるべき対策が全くわからず、準備はおろか過去問すら見ていなかったのが、当日に問題理解や回答方法に悩み、時間がかかり足りませんでした。1/3～1/5 ぐらいは空白で提出してしまったと思います。足切りギリギリ...？

なお、製図を選択した他の方は、1級建築士の教材で勉強していた人が多いと聞きます。製図スピードが問われる課題だと思うので、是非、何度も練習しておいて下さい。

【政策課題討議】

これまでに民間の就活や共同研究で人と討論した経験が何度もあったので大丈夫だろうという、（今思えば）根拠のない自信から対策は全くせずに試験に臨みました。

当日レジュメには、流し読みした資料内容のまとめや自分の意見を箇条書きで書きました。もしかすると、この記載方法によって採点されているのかもしれないので、予備校などの模範解答があれば参考にすればいいと思います。

討論自体は、正直、一緒に討議するメンバーと上手く話が噛み合うかどうか左右されますが、他人の意見を踏まえうえで自分の意見を整理してしっかりと伝えることができるのであれば、評価にほとんど差は出ない試験だと思います。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

【人事院面接】

政策課題討議と同様、共同研究や民間の就活など人前で説明する経験が幾度とあったので、対策は全くしませんでした。

基本的に事前に提出する面接カード（ES）に沿った質問が多く、落ち着いて答えていけば、この試験もそれほど差は出ないと思います。

ただ、「なぜ公務員でないといけないのか?」「なぜ国家公務員でないといけないのか?」「具体的にどこの省庁で何をしたいのか?」ということは、話を聞いた限りみんな聞かれていたそうなので、しっかりと整理しておいて下さい。

そのほかには、「学生時代に研究以外で頑張ったことや失敗したこと」「アルバイトで失敗して学んだこと」等、どこの面接試験でも聞かれるような質問が多いので、民間企業の面接や模擬面接などを繰り返しておけば慌てることなく対処できると思います。

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

特に何もしていません。おかげで、今勉強しています。(泣)

皆さんは万全の状態試験に臨んで下さい。

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：むら (工学・院卒区分)

1. 勉強量について

勉強開始時期：半月前

勉強方法：独学

【一次と二次をどうやって両立したか】

勉強時間 一次：二次 \approx 4：6(専門のみ)

二次試験での専門試験は大学で学んだ範囲なので、一時試験前は一時試験の勉強に集中し、二次試験の勉強は一次試験後から始めました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

勉強時間 専門：教養：課題討議 \approx 6：4：0

教養と専門は別期間、課題討議は対策無しなので、同時並行した時期がありませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

院卒者試験では、文章理解(日本語 3 問、英語 5 問)、判断推理・数的推理・資料解釈(16 問)、一般知識(6 問)という構成でした。私は理系科目や計算が得意な一方、英語と暗記ものが苦手だったため、日本語の文章理解と推理・解釈で稼ぐことにしました。これで 19 問。一般に 6, 7 割で合格できるといわれていたため、8 割の 24 問を目標にしました。

文章理解、推理、資料解釈はいずれも時間をかけて冷静に考えれば分かるものの、一般的な大学入試の数学とは傾向が異なります。過去問や問題集を使って問題に慣れるのが先決です。そして、選択式なのでセンター試験の感覚が通用します。“時間内に”“正確に”解く練習を積むのが重要であり、1 問に使える時間を決めておき、時間がかかりそうだと判断したら頭を切り替えて次の問題に移るといった練習もしておくといいでしょう。

英語は文章題なので、読解力が要求されます。一朝一夕に身につくものではないので、私は予想問題集だけにとどめ、1 問 2 問当たれば良いという気持ちでいました。読み始めると時間を忘れやすいので、実際の試験でも最後に解きました。

一般知識については広範な内容から出題されるため、短期間で全範囲を網羅することは困難です。こちらも問題集はやったものの、自分が習ったことがある範囲が出ればラッキー、という程度の気持ちで臨みました。

結果としては、試験中の時間配分は上手くいったものの、中核の 19 問の 3 割以上を落とす一方、英語と一般知識で多少得点して、ぎりぎり 6 割に乗りました。数的推理・資料解

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マペー	たくお	ピペット	なめこ

積が予想以上に失点してしまったので、過去問と問題集 1 冊では足りなかったというのが反省点でした。類問は少ないですが、大学院試験と傾向が似てる場合があるので、試験問題が残っていれば練習に解き直してみるのも手だったと思います。

【専門試験（工学）】

● 専門一次

私の試験区分は工学です。問題は工学に関する基礎 20 問と、選択科目 4~6 科目中任意の 20 問という構成でした。基礎に関しては高校レベルの内容でほとんど対処できます。私は塾講師で高校理系科目に慣れていたため、さほど勉強せずにすみませんでした。忘れている場合には一通りの復習が必要になるので、前もって準備しておく必要があるでしょう。

選択科目については、その場で解ける問題だけ解いて 20 問にすればいいので、解答できる科目が多いと有利になります。大学院の入試や定期試験を取れていれば問題ないといわれています。

しかし、私は工学でもシミュレーションや社会工学などを扱っており、基礎科学も専攻分野も疎かになっていたため、自信のある分野がありませんでした。そこで、過去問 2 年分全科目に目を通し、解けそうな問題を探しました。ここでも塾講師を続けていたことが役立ち、高校数学の論理や高校化学で解ける問題が少なからずありました。点が取れそうな科目を選び出してからは、知らない定理や法則などを勉強し、まとめていきました。

試験本番では、とにかく取れる問題は何でも取りに行くという気持ちで、一通りの問題に目を通し、全部解ききってから、一番自信のある科目と問題を 20 問選び出しました。この戦略が上手く行き、結果的には基礎も専門もボーダー以上得点できました。

私の場合は極端ですが、工学は最低でも 4 つの科目を解かなければなりません。自分が学んできたことだけでは足りない場合があるので、早めに過去問に目を通し、新たな科目を学びなおす必要がないか確認しましょう。

● 専門二次（どの科目を選んだかを含む）

工学区分では、任意の 2 科目を選択することになります。私は原子力工学の原子核・放射線と原子炉・核燃料サイクルの 2 科目を選択しました。原子力を学んでいる人間にとっては、2 項目に分かれているおかげで、新たな科目を勉強することなく対応できました。過去問を解き、大学院での勉強を復習して臨みました。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

【政策課題討議】

政策課題討議では、与えられた課題に対して自分の意見をまとめた後、全員で討論を行います。研究室での議論や、学生団体に議論を進めた経験から、対策せずに臨みました。

自分の意見をまとめる際には、時間内に書き終えることと、論理が明確になることを意識しました。討議においては、他人の意見に対して反応すること、話に参加できていない人がいれば発話を促すこと、適当なタイミングでそれまでの議論をまとめて認識の共有を図り、話題を整理していくことなどを意識しました。専門的な知識があるわけではないので、討議の内容として高レベルなものが求められているのではないと思います。相手の話を聞いてその場で自分の意見をまとめる機会が多ければ大丈夫でしょう。

【人事院面接】

基本的に事前に提出する ES に沿った質問です。私は ES をしっかり作りこむことを重視しました。特に面接の対策は行いませんでしたが、自分の考えを整理しておいたおかげで、大きな失敗もなかったと思います。

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

3月に TOEIC を受けるにあたり簡単に復習しただけです。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：隠れ眼鏡（化学・生物・薬学・大卒区分）

1. 勉強量について

勉強開始時期：3カ月前

勉強方法：独学＋予備校の国家総合職模試

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次の専門対策を兼ねて二次対策をやろうと思っていたのですが、間に合わず結果的に一次試験の合格発表後に二次試験対策を始めました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

1月頃から教養試験対策を細々と始め、本格的に開始したのは3月後半からでした。この頃から専門一次対策を始め、毎日少しずつ両方に触れるようにしました。

一次試験合格後は時間を計って二次試験の専門と論文を解き、直前期には試験当日のスケジュールに合わせて演習を行いました。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

国家総合職向けの問題集を買って解いた他に、人事院に請求して入手した過去問で時間配分の練習をしました。さらに予備校の総合職向けの模試も受験し会場受験の雰囲気慣れようとしていました。

私は数的処理と資料解釈が苦手だったので、演習を重ねるのに加えて当日問題を解く順番とタイミングも考えました。文章理解は得意だったので満点のつもりでしたが、当日足元をすくわれました。継続的に全ての科目に触れ続ける事は必要だと思われま

【専門試験（化学・生物・薬学）】

● 専門一次

人事院に請求した過去問を解き、間違えた問題を一つひとつ教科書やネットで調べて確認していました。基礎理解が不十分な箇所が多く、かなりの時間を必要としました。また勉強開始段階ではなるべく多くの科目に目を通してどの科目を選ぶか考えるのが良いと思います。私は本番絶対選ぶであろう科目/絶対選ばない科目を決め、残りは問題を見て半分くらいずつ解答していました。

予備校の模試も受けました。理系の受験者が少なすぎて順位はあまり参考になりませんが、会場で解けない恐怖がその後の勉強に火をつけました。(笑)

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

● 専門二次(発生生物学/遺伝学)

専門一次と同様、過去問と分からない部分のチェックを繰り返しました。ただ、人事院から入手した過去問には解答がないので分からないままになってしまう問題も多く、不安に駆られました。また、一度全ての科目に目を通して解ける問題を選択するところから時間を計って演習を行ったため、過去問で挑戦した科目はバラバラでした。自分の得意・不得意にこだわりすぎることなく、少しでも点を取れる問題を探すと良いと思います。

【政策論文】

時間を計って、過去問で論文作成の練習をしました。大学で文章の立て方についてみっちり勉強したのでそれほど苦労しませんでした(その割には普通の点数でしたが)。予備校の模試では細かい点(まとめの方向性や資料の番号を明記するなど)について指摘を受けたので、一度は他者の目を借りるつもりで受験するのも良いかもしれません。

【人事院面接】

民間企業を想定した模擬面接、企業での面接に加えて人事院面接を想定した模擬面接を大学でお願いしました。あとは面接カードをしっかり練り上げる事、そのために自己分析を徹底的に行う事に注力しました。本番は面接官の反応が薄く自信をくじかれそうになりましたが、それでも自分のペースを崩さず元気に答え続ける事が大事だと思います!

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

留学前の TOEFL や就活前の TOEIC 受験のため、(そして留学自体も含めて)英語の勉強はある程度していました。試験対策本を活用する他に普段から論文を読んだり、英語の教科書を使ったりすることで慣れる事ができると思います。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マービー	たくお	ピペット	なめこ

HN：マービー（化学・生物・薬学・院卒区分）

1. 勉強量について

勉強開始時期：前年度の12月から教養試験の勉強を始めました。

勉強方法：独学

【一次と二次をどうやって両立したか】

勉強時間 一次：二次 \simeq 2：1

一次試験までは、教養試験の問題集(過去問とその解説を記載したもの)を重点的に行いました。本格的に二次の勉強を開始したのは、一次に合格した後です。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

勉強時間 専門：教養：課題討議 \simeq 1：2：0

専門は大学の講義で勉強した範囲でしたので、忘れていた部分を補完するよう努めました。課題討議はレジュメの作成法を決めておくくらいで、特別な対策はしませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

- ・院卒程度試験を受験したので、問題数の少ない社会科目は勉強しませんでした。
- ・数的は3周ほど繰り返し行い、それでもできない問題を重点的に解きました。
- ・文章理解は解く問題数と制限時間を決めて、解いていました。
- ・教養試験は各分野の時間配分を決めて、試験に臨みました。
- ・実際の試験は数的が壊滅し、教養試験全体でおよそ4割程度でした。

【専門試験（化学・生物・薬学）】

- 専門一次
 - ・問題はセンター試験や大学の定期テスト程度のレベルだと思います。
 - ・勉強する科目、使用するテキストを少なくしたかったため、バックグラウンドの重なりが大きい科目を選択しました。実際に選択した科目は、数学・物理、基礎物理化学、物理化学、有機化学、薬理学と適当にあとひと科目を選択しました。
 - ・勉強する範囲は広いですが、科目によっては狙われ易い分野があると思いますので、過去問に目を通しておいたほうが良いと思います。
 - ・実際の試験は6割程度の正解数でした。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎ ちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ 眼鏡	マピー	たくお	ピペット	なめこ

● 専門二次

- ・問われることは基本的なことが多いですが、かなり細かい部分も問われるため、薬剤師国家試験よりも難しい印象を持ちました。
- ・薬理学と有機化学を選択しました。
- ・大学で使用しているテキストで勉強しました。
- ・専門記述は範囲が広いうえに、細かい部分まで問う問題が出ますので、網羅的な勉強が必要だと思います。
- ・その一方で、頻出の分野があるので、過去問で確認しておいたほうが良いと思います。
- ・配点が一番高い試験ですので、ここで踏ん張ることができれば大丈夫??（私は一次の失敗を十分に挽回できました。）

【政策課題討議】

- ・討議は得意ではないので、あきらめていました。
- ・与えられた課題に対して、私 1 人が賛成派で他の 5 人が反対派になりました。
- ・自分の意見の根拠を示せること、他人の意見に耳を傾けて議論を展開できることが大切であるという印象を受けました。
- ・研究室などで議論する機会がある人は、特に対策を立てる必要はないかと思います。

【人事院面接】

- ・経験を語る上での動機付けや、そこから得られたことなどを聞かれました。
- ・ES に記載した内容に関して、深く掘り下げておくことが大切であると思います。

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

- ・特に勉強はしませんでした。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：たくお （化学・生物・薬学・大卒区分 / 教養・大卒区分）

1. 勉強量について

（化学・生物・薬学区分）一次試験に関しては、教養は3月から、専門は4月から勉強を始めました。研究室もあったので、平日は一日に3時間程度、土日は8時間程度でした。二次試験に関しては、5月の合格発表を受けてから勉強を開始し、一次試験と同様、平日は一日3時間程度、土日は8時間程度でした。

（教養区分）一次試験に関しては、1週間ほど前から一日に3時間程度勉強しました。二次試験に関しても勉強と言えるものはほとんどしませんでした。企画提案試験に関しては1週間ほど前から案を練りました。

2. 勉強・試験内容

○化学・生物・薬学区分

【教養試験】

時間配分が大切だと思ったので、どの程度の問題ならば捨て問か、という判断ができるよう、時間を計って何度か過去問を解きました。判断・数的理解に関しては反復練習で時間短縮が可能であると感じたため、参考書を購入し繰り返し解きました。文科系の知識問題については、今更勉強しても間に合わないと考え一切勉強しませんでした。時事問題に関しては、時事問題の参考書を使って勉強しました。

【専門試験】

一次試験に関しては、まず一通り過去問を解き、それと類似する部分を院試の時のノートや教科書などから見付けて、その前後を復習する、といった形式で勉強していました。また、化学・生物の参考書を購入し、載っている演習問題を解きました。二次試験に関しても過去問を解くことから始め、一次試験と同様にノートや教科書を参考に勉強していきました。

【政策論文】

過去問を10問ほど解き、時間配分をどのようにすれば良いかという感覚を養いました。また、パソコン生活のせいで漢字に弱くなっていることを痛感したため、必ず手で、それもあらずだけでなく全文を書くようにしていました。内容に関しては、一日置いておいてから自分で読み直し、問題と論点がズレていないか、回答として論理的かといったチェックを行いました。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎ ちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ 眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

【人事院面接】

就活スケジュールを見ていただくと分かりますが、そもそも面接を受けるのが初めてだったので、自己PRとは何か？といった基礎的な所から開始しました。大学のキャリアサポートセンターで模擬面接をしてもらったり、友人を面接官に見立てて面接してもらったりと練習を繰り返しました。また、スーツや就活鞆などを購入しました（そのときまで持ってなかった（笑））。

○教養区分

【教養試験】

化学・生物・薬学区分の受験時同様、判断・数的理解に関して問題を何度か解きました。時事問題に関しては、当時就活まっただ中だったこともあり、いくつかの参考書を使って勉強し、時事を暗記するだけでなく、それぞれに自分の意見が言えるよう考えを深めました。

【企画提案試験】

企画提案試験に関しては、自分で書いた案を友人に見せてアドバイスを貰ったり、文章を推敲したり、新聞や雑誌などから何か良い案はないかと探したりしました。

【政策課題討議】

どんな問題がどんな形式で出題されるのか、事前の情報収集が全くできておらず、ぶっつけ本番で試験に臨みました（よい子は真似しないこと！）。

【人事院面接】

そのころには民間企業の就活やインターンシップの選考などで面接慣れしていたため、特に対策は行いませんでした。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：ピペット（化学・生物・薬学・大卒区分）

1. 勉強量について

勉強開始時期：2013 年の 9 月

勉強方法：独学

【一次と二次をどうやって両立したか】

勉強時間 一次：二次 \approx 3：1（ざっくりです）

2013 年中は一次試験中心にやって、年明けから二次試験の対策も始めました。春休み（3 月）は再び一次試験の対策に集中して、4 月は研究室が始まってばたばたして、そして試験本番、という感じでした。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

勉強時間 専門：教養：課題討議 \approx 5：1：0

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

文章理解（主に英語）と数的処理は問題集 2 冊くらいやりました。

過去問は文章理解と数的処理と理科の問題の部分だけ解いて、文系の分野はスルーしていました。あとは時事問題の本をちょっと見たくらいです。

【専門試験（化学・生物・薬学）】

● 専門一次

学校の講義で扱った範囲とかぶる科目を中心に 6 科目選びました。

年内（2013 年）のうちに基本的な参考書に目を通して年明け（2014 年）からは主に過去問を解いていました。薬剤師を目指す人用の物理や生物の参考書が、範囲もそこそこかぶっていてわかりやすかったので結構使っていました。

● 専門二次（どの科目を選んだかを含む）

選択科目：有機化学と食品学

有機化学：参考書に準拠した問題集＋過去問

食品学：参考書を何冊か見つ、過去問を中心に対策しました。

【政策論文】

基準点クリアだけを目標に、特に何の準備もしなかったのので何を書いたか覚えていません（笑）。

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎ ちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ 眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

【人事院面接】

面接がとても苦手なので、学校のキャリアサポートセンターで面接カードをチェックしてもらったり模擬面接をやってもらったりしました。実際には、かなり形式的な面接だったように思います。

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

教養試験の過去問のほかには英単語だけ1日20個くらいずつやっていたのですが、本番は撃沈したので効果はなかったです。

工学							化学・生物・薬学			数・物・地	
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

HN：なめこ （数理科学・物理・地球科学・院卒区分）

1. 勉強量について

勉強開始時期：（教養）5カ月前（専門）3カ月前くらい

勉強方法：独学

【一次と二次をどうやって両立したか】

勉強時間 一次：二次 \approx 3：1

とりあえず一次を突破することを目標に、試験勉強開始後から一次試験までは専ら一次の勉強をして、二次対策は一次が終わった後にやりました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

勉強時間 専門：教養：課題討議 \approx 1：1：0

勉強をはじめの際に一次試験の過去問を解いたところ、教養も専門も足りきをくらいそうな点数（！）だったので両方の比重は同じくらいにしました。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

まず準備段階として、過去問を試験前年 9 月に大学の就職課（キャリア支援センター）で入手。時間を測って解いたあと、例年の傾向を確認。院卒者試験では全体に対する数的（判断・数的推理、資料解釈）と文章理解が取れば何とかかなりそう（30 問中 24 問）だったので、その二つの対策に絞る方針をたてたのが 1 1 月頃でした。

そのあとに過去問集を買って、数的と文章理解の問題を繰り返し解いていくという感じで自分は勉強しました。だいたい 3 月までに 3 周して（間違えた問題はもう少し解いていた）、4 月下旬に最後もう一周しました。

あと時事対策として、民間就活でも聞かれると思い、3 月に時事の本を購入して、空き時間に読むようにしていました。ただどちらかといえば就活の面接の方で役に立った感じで、本試験の 3 問はよくわからない感じでした。（笑）

本番は、最初の一時間で取れそうな数的の問題を 10 問、次の一時間で文章 8 問と数的 1、2 問、残り 20 分で時事とその他の計 6 問を解くという作戦で臨みました。試験開始後、数的の問題に早速取り掛かったのですが、あれ解けない...結局自信をもって解けたのが 3 問くらいしかなく、40 分で文章理解へ移行した時はかなり焦っていました。その後、文章理解は慎重に解いたものの、何とか科学と時事のうち、物理の問題以外の他 5 問は勘で解くといった惨状...試験終わった後に本当に落ち込むことになるので皆さんは真似しないようにしましょう(><)

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ眼鏡	マペー	たくお	ピペット	なめこ

結果としては文章理解と時事その他は何とかなったものの、数的は半分くらいしか取れないという当初の予定とは全く異なる結果となりました。数的は他の問題集なども使って、過去問以外の問題にも慣れておくのがよいのかもしれませんが。

【専門試験（数理学・物理・地球科学）】

● 専門一次

大学のキャリア支援センターにおいてあった過去問が 5 年分まででやや足りないと感じ、それ以前（平成 10 年度まで）の過去問を 10 月はじめ頃に人事院に請求したものの、結局届いたのが 11 月末頃でした。手続きがやや複雑なので、試験を受ける場合は早めに手続きを済ませておくか、知り合いがいれば譲っていただくのがよいと思います。

特に自分のような場合（＝専門が地球科学）だと、対策する内容は主に、①高校地学・大学地学（40 問中 20 問くらい）の内容の復習、②高校数学・物理（40 問中 10 問）の復習、③選択問題に占める自身の専門外の問題の勉強（自分の場合は 40 問中 10 問くらい）、の三つになると思います。①については、初見で解ける問題も多かったのですが、復習も兼ねて図書館の本なども引っ張って復習し、過去問のコピーに直接書き込みファイリングして何度も読み直すということをしていました。②については、過去問を見ただけでは解けない問題が多かったので、解説付き過去問集を使用し思い出すように努めていました。③については、実は手をつけたのが本番 2 週間前とかなり直前で、本番では結構落としてしまいました。おそらく③の勉強が一番時間がかかるはずなので、もし試験を受験される際は戦略的に勉強計画を練っておいた方がよいと思います。

● 専門二次（地球科学）

No.14 と No.15 の地球科学の 2 題を解くつもりで対策しました。具体的には過去問の回答作成、わからないところは大学図書館の本やインターネットで調べたりなどしてしました。一次試験で勉強していたこともあったので基本的な知識はあったものの、この文章でよいのかと思って迷ったりしてしまいました。専門の教授にアポをとって添削などしてもらったべきだったかなとやや反省。

【政策課題討議】

就活セミナー、民間企業の入社試験等でグループディスカッションの経験が何度かあった私としては、この試験はやや易しめだと感じました。ポイントとしては、①レジメは見やすく書く、②議論では積極的に発言する（他人の話をよく聞きつつ）、③議論の前後での成長をアピールする、といったところかと思います。ちなみに私の場合は、最初の 2 回くらいのグループディスカッションでは失敗ばかりでしたが、それ以降は慣れてきて上手く議論できるようになったと思います。

工学							化学・生物・薬学				数・物・地
あやち	鯛	タマ	うなぎ ちゃん	(T_T)	みずパン	むら	隠れ 眼鏡	マヒール	たくお	ピペット	なめこ

【人事院面接】

面接カードを作成し、それをもとに面接を行いました。聞かれる内容はカードの記載内容に沿ったもの（＝自分がこれまでやってきたこと、国家公務員の志望動機）がメインだと思います。面接が不安な方は友人や大学の就職課で模擬面接をしてもらう、可能であれば民間企業で面接の場数慣れをしておく等するのがよいと思います。また、理系の特に院生の方は自分の研究内容を話す機会が必ずあるので、誰が聞いても納得してもらえるようにまとめておくと◎です。

【英語の勉強をしたか、どうやって勉強したか】

<TOEIC の勉強>

TOEIC の点数は民間就活でも聞かれるほか、来年度から国家総合職試験での英語試験の活用などもあるそう（詳細は人事院 HP へ）なので、計画的に勉強しておくのがよいと思います。就活シーズン真っただ中に英語の勉強を集中的にやるのだけは避けた方が賢明です。（ホントに辛いです (><))

ネットを参考に TOEIC の公式問題集の Vol.3, 4, 5 を入手して、ひたすら解くという手法で自分は勉強しました。特にリスニングの問題を、聞こえるようになるまで繰り返し同じものを聞くという作業を 2 週間続けた結果、リスニングだけで 100 点以上点数が伸びました笑。リスニングに伸び代がある方にはオススメです。